

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和7年第Ⅱ四半期（4～6月）

**設備投資：ほぼ横ばいで推移**    **資金繰り：改善に転じる**  
**採算状況：全業種で改善**        **雇用人員：わずかに不足感が弱まる**

来期（令和7年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では19.2%となり、やや上昇する見通しとなった。

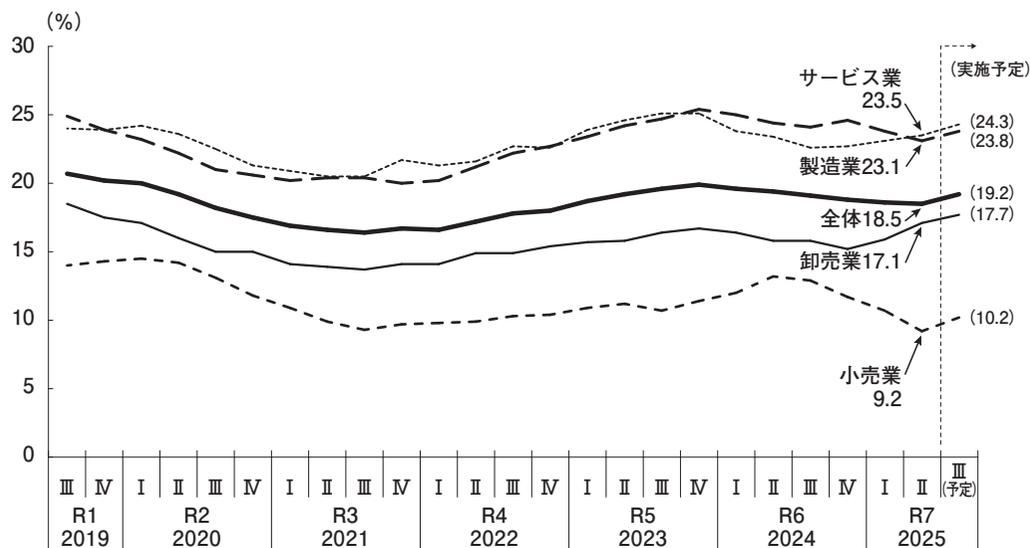
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて全ての業種で上昇が見込まれる。なかでも小売業10.2%、サービス業24.3%はともに大幅な上昇が見込まれる。

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和7年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は全体では18.5%となり、前期（令和7年1～3月）の18.6%からほぼ横ばいで推移した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は卸売業17.1%（前期15.9%）が大幅に上昇、サービス業23.5%（同23.1%）がわずかに上昇した。一方、小売業9.2%（同10.7%）は大幅に低下、製造業23.1%（同23.8%）はやや低下した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 — 後方4四半期移動平均 —

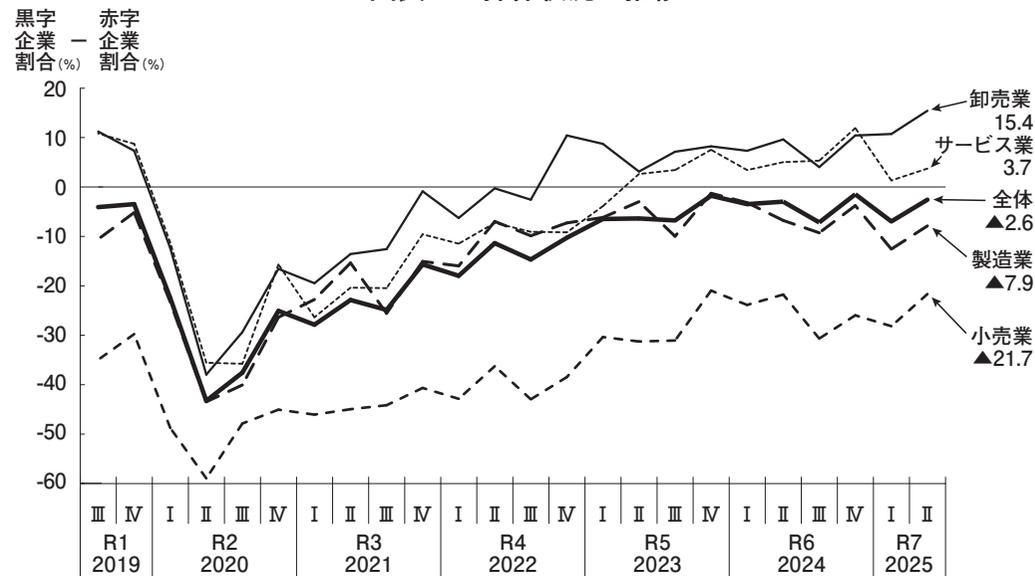


## ■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲2.6（前期▲7.0）となり、4.4ポイント増加し改善した。

業種別にみると、小売業▲21.7（同▲28.2）は6.5ポイント増加し大幅に改善、卸売業15.4（同10.7）と製造業▲7.9（同▲12.6）はともに4.7ポイント増加し改善、サービス業3.7（同1.3）は2.4ポイント増加しやや改善した。

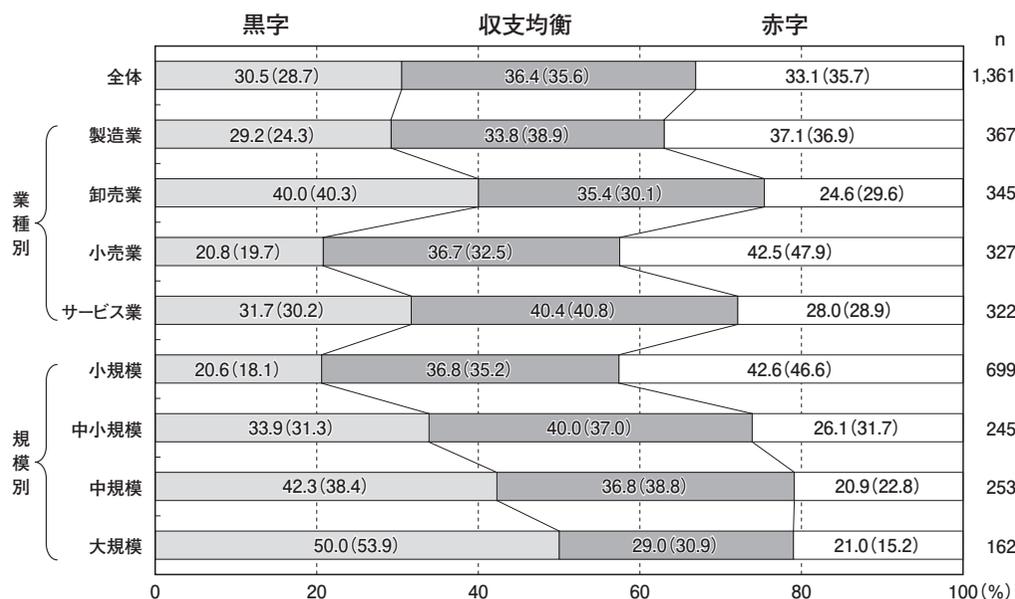
図表2 採算状況の推移



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「黒字」が高くなり、大規模は 50.0%（同 53.9%）を占めた。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。( ) 内は前期 (令和7年1~3月) の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

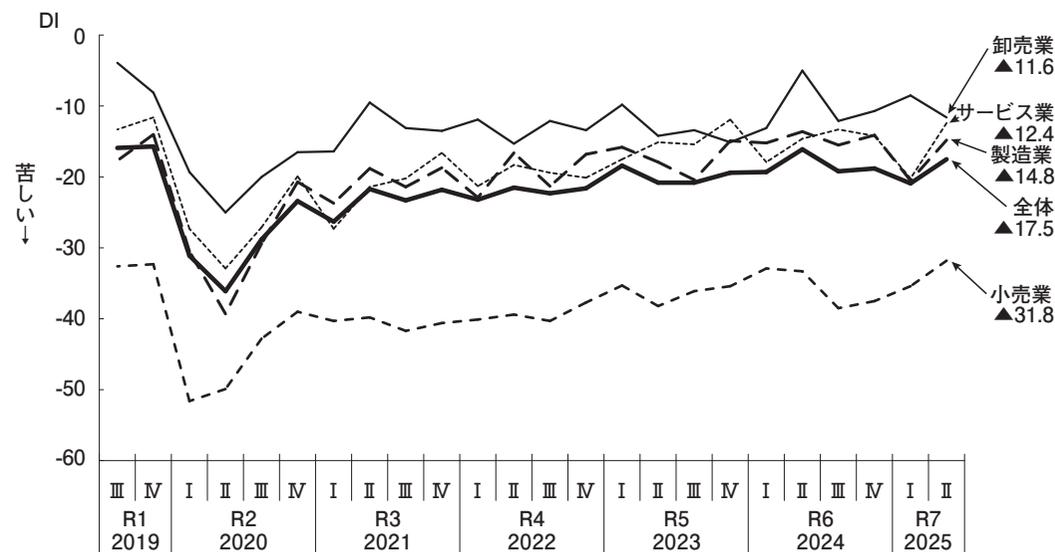
## 資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）でみると、全体では▲17.5（前期▲20.9）となり、3.4ポイント増加し改善に転じた。

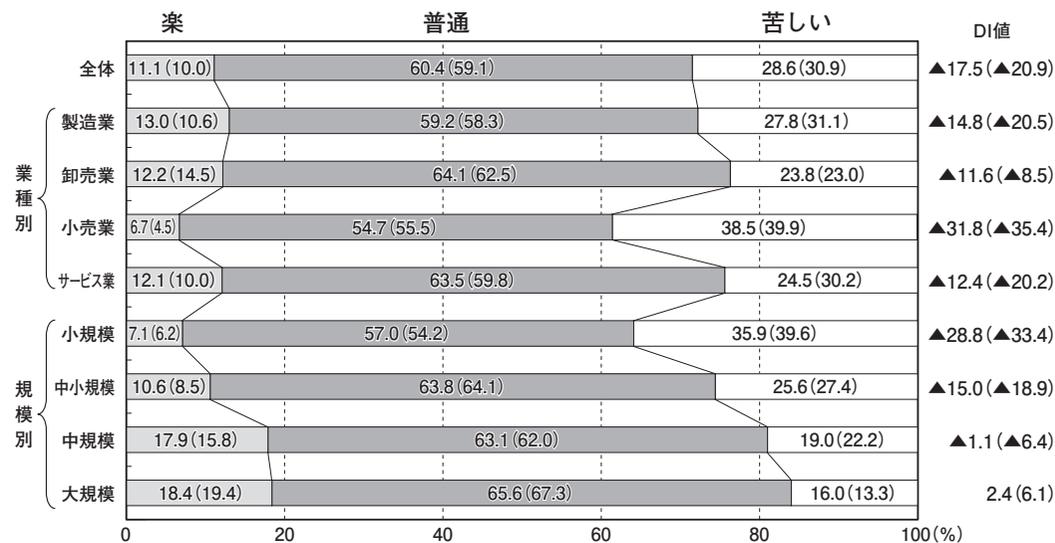
業種別にDI値をみると、サービス業▲12.4（同▲20.2）は 7.8ポイント増加、製造業▲14.8（同▲20.5）は 5.7ポイント増加とともに大幅に改善、小売業▲31.8（同▲35.4）は 3.6ポイント増加し改善した。一方、卸売業▲11.6（同▲8.5）は 3.1ポイント減少し悪化した。

規模別にDI値をみると、中規模▲1.1（同▲6.4）は 5.3ポイント増加し大幅に改善、小規模▲28.8（同▲33.4）は 4.6ポイント増加、中小規模▲15.0（同▲18.9）は 3.9ポイント増加とともに改善した。一方、大規模 2.4（同6.1）は 3.7ポイント減少し悪化した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）

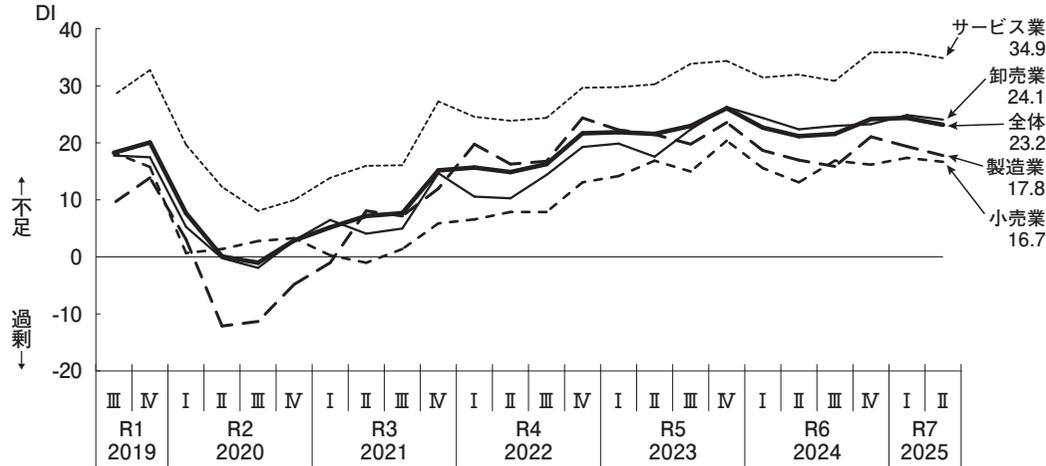


注) 規模別は規模不明を除く。( ) 内は前期 (令和7年1~3月) の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

## ■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では 23.2（前期 24.4）と 1.2ポイント減少しわずかに不足感が弱まった。

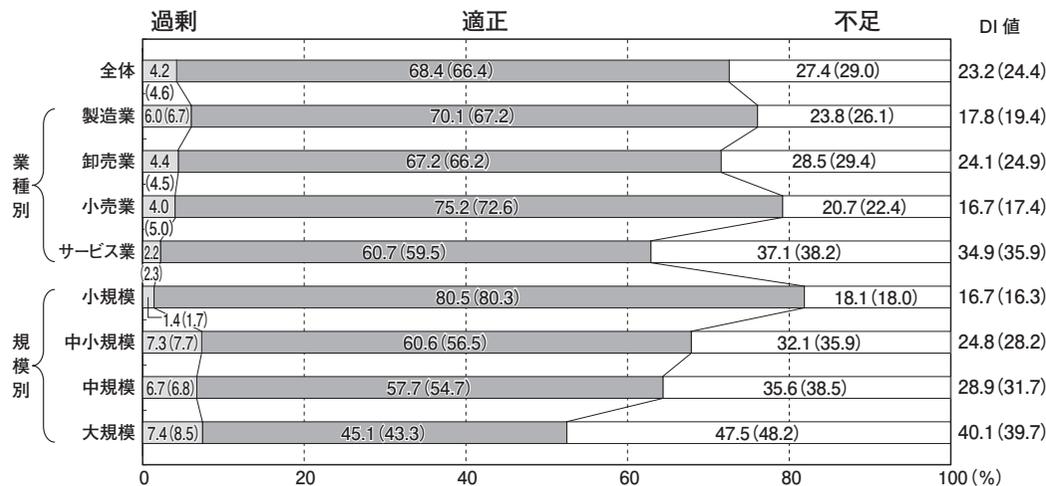
図表6 雇用人員DIの推移



業種別にDI値をみると、製造業 17.8（同19.4）は 1.6ポイント減少、サービス業 34.9（同 35.9）は 1.0ポイント減少、卸売業 24.1（同24.9）は 0.8ポイント減少、小売業 16.7（同 17.4）は 0.7ポイント減少しそれぞれわずかに低下した。

規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は 40.1（同 39.7）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期（令和7年1～3月）の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。